

精神科医療現場における「暴力・暴言」問題の多層的検討：
暴言や罵声を受けた看護師の感情経験と対処を中心に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松原, 渉 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1066

1-R-5

精神科医療現場における「暴力・暴言」問題の多層的検討 —暴言や罵声を受けた看護師の感情経験と対処を中心に—

松原 渉¹⁾

精神科医療現場における「暴力・暴言」問題は単に「個人」だけでなく、「組織・状況」「社会」まで影響を及ぼすが、これまで多層的に検討された報告が見当たらない。本研究は、暴力問題の裾野を広げて、歴史、心理学的側面から検討した上で、「個人」と「社会」のあいだ「組織・状況」における言葉の暴力を中心に、患者はどのような状況から暴言を吐くのか、一方、それを受けた看護師の感情経験と対処はどのような要因が影響するのかを探究する。

患者は精神障害とそれに伴う社会的不利から関係的な生きづらさを抱え、その葛藤から暴言を吐くと考え。一方、暴言を受けた看護師の感情経験や対処では「関係性」や受け手側の「認知的評価」が影響を及ぼしていた。その発生因が故意か病的かという、看護師の解釈の違いで、〈モヤモヤ停滞状況〉という感情経験か〈リセット〉という対処かという、分岐点になっていた。そこで暴言の受け取り方の解釈の①故意か②病的かと、A「社会」B「組織・状況」C「個人」というマトリックスを作成し、①-A「社会的問題」、②-A「社会保障的立場」、①-B「矛盾関係の様子見」、②-B「医療専門職」、①-C「自己責任論」、②-C「自己犠牲的、献身」の6個の枠組を抽出した。暴言の発生因の認知的評価が故意の場合、「自己責任論」「自己犠牲的、献身」「矛盾関係の様子見」を巡って揺れ動き、看護師は〈モヤモヤ停滞状況〉を経験していると考え。

1) 神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程